

エコまち未来プロジェクト B チームからの報告

行ったこと

『ワールドカフェ方式による会合の開催』

選定理由

想定していたより、耳に入ってくる環境関連のグループが少ないことから、大掛かりなイベントよりも、かまえず、それでいてしっかり意見を出し合える話し合いの方法であるため。

経過

- | | |
|-------------|--|
| 14年10～15年2月 | 現在活動しているグループ(や個人)と一般の方両方が来やすいイベント開催ができないか、キーになる NPO 等に紹介を打診、相談 |
| 15年3月～5月 | 紹介されたグループや個人の重複が多い。また農家などでは繁忙期で参加できないとされるなどあったため、少人数で開催できて、率直な意見が出しやすいワールドカフェ方式での会合の開催に変更。 |
| 15年6月.7月 | ワールドカフェ開催 6月4日.7月13日 |
| 15年8月～ | 2回分の開催結果をもとに、9/5提案発表会に向けての準備 |

会合の結果から考えられること

現在動いているとして紹介されたグループや人に重複が多いということから、島田市での環境系の市民の活動が、1)一部のひとで行われている、2)他のグループとつながりが希薄である、3)上記1)2)両方ではないか。調べた範囲が広いとは言えないが、当初から「問題」と感じていたことが、改めて「うきぼり」になった感があった。

また、1)～3)の状態、これは生物の世界で言われる、「緑の回廊」(※)を設ける必要がある状態。これは、別紙の基本構想で示された「結び目・かけ橋」の機能を担う部分が必要。

(※) 緑の回廊・・・野生動物などで生息域がヒトによって狭められたり、分断されてエサが取れなくなったり、近親交配が生じて絶滅することがある。それを防ぐため、野生生物の生息地間をつなぎ、主に動物種の移動を可能とすることで生物多様性を確保するための植物群落や水域の連なりを指す。人工的に設けられたものを指す場合が多いが、同様の効果を持つものならば意図せず形成されたものに対しても用いられる

どんな対策が必要か

- ① いま動いている環境に関するグループなどの情報の収集と整理
- ② 「結び目・かけ橋」の機能を担う部分を、できるところから作っていく。

今後の活動について

エコの関連することを広げることは多岐にわたっており、多くの条件も勘案しなければいけないので、今すぐに具体的に「〇〇をする」と決めるのではなく、対策でできた②を一步づつ進める。すなわち、行政(とくに市民協働課等)と行政と市民、市民同士を「つなぐ機能を協働推進課などと相談しながら」作り上げていく。

メンバーの感想など

2014年2月まで

ワークショップ形式が楽しかった。(1名)

ワークショップで成果が目に見える形で出た。これが期間を通じてよりどころの1つとなった。

2014年3月以降

Bチームは市民活動をやってきた人とそうでない人が半々だった。そのため、「外から見た市民活動」を実感でき、成長できた(1名)

活動の期間等の差があり、どうやって活動していくか最初は戸惑った。(3名)

全期間通じ

100人会議にかかわる人(市民も担当部署など)が、自分たちが活動することに目が行ってそうでない人(他の市民や庁内他部署)に対してあまり意識が向いていなかった。

そのため(9/5の集客以前に)2年の任期中に、市民に対し100人会議を十分に知らせられなかった。(1名)

添付書類

- 1) エコプラットフォーム基本構想
- 2) ワールドカフェの記録2回分(6/4,7/13)
- 3) 9/5 発表の資料 パワーポイント
- 4) 9/5 発表の資料 朗読の文章